



## 描かれた霊峰

山梨県立美術館・博物館収蔵品から

3

### 桜井孝美 「天と地と」

2000年 油彩／金箔・麻布

## 力みなぎる激しい筆致

横幅3倍近くある大きな画面の中央には、富士山が大きく構える。山麓から山腹にかけては緑、山頂付近からは赤、そして金箔が使われ、山肌には黄色や赤などによる激しい筆致が現れる。まるで富士山内部の活動を表したようなエネルギーギッシユな表現は、画面下部で荒れ狂う波と呼応し、画面全体にダイナミックな印象を与える。

画面左右にはそれぞれまん丸の太陽と月が表され、富士山と共に日月を描

く古来の主題が桜井独自の画風で表される。同時に、円形という形状、そして富士山の円すい型が画面に安定感を与え、霊峰の壮大さを強調する。

桜井は埼玉県に生まれ、日本大学芸術学部卒業直後の1968年に山梨県繊維工業試験場の織物デザイン担当技師として採用され、富士吉田市へ移住した。安井賞展初出品で安井賞を受賞するなど、活動の幅を広げ、1992年には定年を待たずに退職し、制作に

専念する生活に入った。

作品では家族の日常や旅先の様子を描くとともに、富士山をテーマにした色彩あふれる力強い絵画を多く制作している。「この富士の麓の標高750以上の高原都市を離れることなく、毎日富士の雄姿を仰ぎ見て、いま画家として生活している」と語るように、作品には富士山への強い想いが込められている。

(下東佳那・山梨県立美術館学芸員)